これからのわがまち物語

　そのまちは、戦禍をもとで焼け野原になりました。あれから三四半世紀（75 年）、私たちは目に見えないコロナ禍にいます。

　私たちの先達はその時々の禍を乗り越え、今のまちをつくってきました。そこには大切な物語があります。

　その物語は、その時々の人たちの思い、出会い、支えあい、そして工夫を凝らし、知恵を絞った歴史の中から生まれてきました。

　これからの物語をつくっていくのも今地域に暮らす私たちであり、その遺伝子を継承する次の世代の人たちです。

わがまち物語という終わりなきドラマづくり

脚本家は？　そして主役は？
一緒に考え、行動することから、困難を乗り越え、
安心が、元気が生まれていくことと思います。

人のつながりを大切に　これからの
私たちの物語をつくっていきましょう！

発行：2021年5月吉日
発行者：特定非営利活動法人　湘南NPOサポートセンター
企画・執筆・撮影：坂田美保子　鈴木奏到　氏家真美　長谷川正幸
津田潤　猪瞑位　田中勉　鳥巣真充　岡部詔重
監修・デザイン・編集：鈴木奏到　氏家真美
協力：平塚市協働推進課　平塚市福祉総務課　平塚市中央公民館
横内公民館　豊田公民館　城島公民館　土屋公民館

特定非営利活動法人
湘南NPOサポートセンター
〒259-1517 平塚市長持568-5
URL　http://snposc.org
e-mail　shonan@snposc.org

第8回 ひらつか地域づくり市民大学
開催報告

持続可能な地域運営に向けたリスタート

特定非営利活動法人
湘南NPOサポートセンター

本書は令和２年度、平塚市協働推進課、平塚市中央公民館、平塚市福祉総務課、ＮＰＯ法人湘南ＮＰＯサポートセンターが協働して実施した「第８回ひらつか地域づくり市民大学」の報告書です。

持続可能な地域運営に向けたリスタート

「誰もが助け合い支え合いながら、困った時には気軽に相談でき、子どもからご高齢の方まで、一人ひとりが安心して暮らせるまちにしたい」

地域の課題は多様化していますが、それぞれの立場で様々な関係者との連携を促進し、協働することで解決に結びつくこともあります。

そのためには、いつ・どこで・誰と何をすればいいか？を一緒に考え、取り組む仲間が必要です。地域づくりは人づくりとも言います。思いを共有できる仲間を増やしながら「住んで良かったと思えるまち」を目指していきたいものですね。

さて、令和２年は世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症の拡大によって社会生活が大きく変わりました。地域活動もその影響から会議やイベントなどの中止や延期を余儀なくされ、地域のつながりも薄れていきました。

しかし、そのような時だからこそ、これまでの活動を振り返るチャンスかもしれません。

第８回「ひらつか地域づくり市民大学」は、ニューノーマル時代に向けて持続可能な地域運営に取り組むためのきっかけづくりとして開催いたしました。

４つの公民館（城島・土屋・豊田・横内）とメイン会場（ひらつか市民活動センター）とを、オンラインで繋いで実施できたことは大きな成果となりました。

ご協力いただいた各公民館及び関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

ひらつか地域づくり市民大学の目的と理念

地域の様々な団体や個人をつなぎ、地域課題などに住民自らが取り組み、住みよい地域づくりを進めていくための人材の育成や地域活動に携わる人材のすそ野を広げ、協働社会の基礎をつくります。

1. 自らの学びの成果を地域の中で活かす「協働の担い手」を育てる
2. 地域住民や市民団体が相互に連携・協力して「協働の輪」を拡げる
3. 地域の課題解決に向け、住民が知恵と力を出し合って取り組む「協働のまちづくりの基礎」をつくる

主催　平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）/ＮＰＯ法人湘南NPOサポートセンター

第8回　ひらつか地域づくり市民大学　講座の概要

公開講座

日時：11月21日（土）13:30～16:00
会場：ひらつか市民活動センター（参加者9名）　豊田公民館（参加者10名）
城島公民館（参加者8名）　横内公民館（参加者9名）　土屋公民館（参加者6名）

講演

「平塚市の地域活動の現状を見つめ、これからの時代を考える」

講師：宮崎道名氏（株式会社カントリーラボ代表取締役）

新潟大学客員准教授をへて岩手県へ。市民参加のまちづくりや紫波町のオガールプロジェクトなど、各地でまちづくりの担い手育成や市民活動支援を地域に根づきながら行なっている。

講師の宮崎道名氏

意見交換会

「共生・共存社会の地域暮らしを考えてみよう」

実践講座

第1回

日時：12月19日（土）13:30～16:00
会場：ひらつか市民活動センター（参加者4名）　豊田公民館（参加者10名）
城島公民館（参加者8名）　横内公民館（参加者7名）　土屋公民館（参加者7名）

「自分たちの地域活動の現状を見つめてみよう」

講師：宮崎道名氏
講座・ワークショップ：地域行事カレンダーを作成して、課題と再編の可能性を議論する

第2回

日時：3月21日（日）10:00～12:30
会場：崇善公民館（参加者2名）　豊田公民館（参加者8名）
城島公民館（参加者8名）　横内公民館（参加者10名）　土屋公民館（参加者9名）

「地域活動を見直す上で必要なことを考えてみよう」

講師：宮崎道名氏
講座・ワークショップ：地域行事の再編・見直しをする際、ネックになる点を議論する

本年度は新型コロナ禍での開催となったため、万全な感染防止対応をすべく参加者の検温、マスクの着用、アルコール消毒、ソーシャルデスタンス等を踏まえて実施しました。
メイン会場のひらつか市民活動センター（実践講座第2回は崇善公民館）と市内4か所の公民館をオンラインで繋ぎ、バーチャル／リアリティーのハイブリッド方式を試みました。

公開講座

講演　「平塚市の地域活動の現状を見つめ、これからの時代を考える」

昨年度に引き続き、講師として株式会社カントリーラボ宮崎道名氏をお迎えし以下の講義をいただきました。

これから平塚市が抱える大きな2つの課題

(1)人口減少：人口ピークは2010年26.8万で2040年は22.1万に人口減少し、労働人口も1/4減少する。
(2)少子高齢化：子供の人数は25年間で約１万人が減少している。一方2030年には老齢人口が７万人を超えて高齢化が進み、要介護認定者が増加する見通しである。

今回の講座ではデータを通して課題を可視化し、自分達で考え、決め、実行する住民自治を再構築する事の重要性を紹介しました。平塚市は少子高齢化が進み、後期高齢者が増加、町内会では高齢者が活動の中心、独居世帯も増加、また働く世代の働き方も変化しています。

更にインフラ・公共施設の老朽化も深刻です。例えば道路・橋梁の大半は築50年を経過。維持費は予算に組み込まれているわけではなく、人口減少で税収入が減り、補修費用を十分に確保できない現状となっています。

また、人口減少で生ずる現象をネットワーク数でみると、5人の時は10通りで4人の時は6通りとなり、ネットワーク数も激減します。1人減ることでお金の流れやサービスが減ることになり、暮らし方や生活面にも大きく影響することがわかります。関わる人が減少すると外につながる機会も減ってバラバラになり、力を集中させることが困難になってしまうのです。

現在平塚市の高齢化率は28.3%で全国平均よりは低い値にあり、まだまだ若い街です。しかし、確実に少子高齢化は進んでいるのです。

意見交換会　「共生・共存社会の地域暮らしを考えてみよう」

平塚市地域毎の人口ピラミッドから

参加者の地域毎に人口構成グラフ（横軸／高齢化率、縦軸／18歳未満同居率）を用いてデータを入れ込んでいき、平塚市の平均値と比較して各地域の置かれている現状の可視化を行いました。

この人口構造グラフから、若い人の同居率が低く高齢化率が高い地区は右下の第4象限へと年月と共に変化していくことが読み取れ、自分の地域が平塚市の中でどこに位置するかが一目瞭然でした。

これからの自治の進む、あるべく道

(1)地域の変化を見越して行事・活動ではなく事業へ、役割・運営ではなく経営へ、の意識変革が重要。例えばゴミ分別だけでなく、ごみで稼ぐ地域になる。一方行政は「要望を聞いて対応する」から「事業・組織の経営支援」へ変革する。
(2)分からない、悩んでいるは判断材料を探しているが見つかっていないか、判断の先送りのどちらか。決めないのも選択肢のひとつだが、それでは若者は確実に離れていく。修正しながらでも決めていけば生き残る確率は高まる。

これからは人口より課題が増加する時代、社会はこれまでと同じやり方では歯が立たないでしょう。気づかないふりが判断と行動をさらに遅らせることになります。その為、チャレンジする自治を目指し、頭も心も柔軟になることが大切です。

参加者の感想

- **横内公民館**…課題として高齢化、次の役員のなり手がいない。若い人が参入していない、行事も多く大変。システム的な組織運営で対応していきたいと思う。
- **豊田公民館**…空き家の家賃の設定は、最低固定資産税は考慮するが、その地区で何をコンセプトで進めるかにより地域活動主導で課題設定し、稼ぐ地域にすることが大切と感じた。
- **土屋公民館**…2030年43%高齢化率が非常に高く、このような特徴ある現状を理解し、活かしていく新たな可能性を見出していかなければいけない。
- **城島公民館**…新型コロナ禍の中での情報展開、かなりの高齢化が進んでおり今年度小学生の入学が17人だった。課題は可視化できるので、他地域のモデル地区になっていきたい。

実践講座1

講演　「自分たちの地域活動の現状を見つめてみよう」

実践講座も引き続き講師として株式会社カントリーラボ　宮崎道名氏に講義をしていただきました。

今回のテーマは、地域活動を進化させるべく地域活動の棚卸しの重要性を学び合い、考えるキッカケにして、安全安心な地域づくりをもう一度確認し、それを作れる仕組みづくりを進めることとしました。

今ある大きな課題として人口減少、少子高齢化が確実に進んでおり止められない現状があります。地域コミュニティ、自治会・町内会は行事等を見直し進化させて次の10年を迎えたい。そのためには以下の2点が必要であると考えます。

(1)マーケティングし何年後にはどうなっていたいか。行事、会議、組織を見直し、少ない時間・人で最大効果を出していくことが重要である。

(2)自分たちの地域課題を”見える化”する事が大切。様々な世代が課題解決のために、自分たちで決め、自分たちで担うための材料を共有、見える化して取り組むことが重要である。

※講師より、積極的に地域づくり活動を実践している６つ事例の紹介がありました。

これらの事例から学び、地域が進むべく道

これまでの地域づくりの手法では、既に到来している人口減少・人口構造の変化に対応できません。且つ増やす、広げるような拡大や成長路線一辺倒では解決できないでしょう。

そこで、これからの地域づくりは以下２つが大切です。

地域の人たちの“声”をよく聞き、活かすこと
そのシーズ（アイディア・種）は地域の人たちの足元にある

講座・ワークショップ：地域行事カレンダーを作成して、課題と再編の可能性を議論する

ワークショップでは、地域活動で年間作業しているお祭り・行事・会議等の棚卸しをし、各地域から次のような報告がありました。

- **横内公民館**…主な活動は全て自治会全員で実施している。そのため極力打ち合わせ回数を少なくしている。地区レク等は１回/年の打ち合わせで実施。防災キャンプは子供たちと一緒に実施して防災訓練も兼ねている、厚木の防災センター見学も行った。

- **豊田公民館**…地区レクなどは、事前の企画準備、関係団体の協力調整等、多くの時間やスタッフを要しており、見直していく課題が沢山ある。
- **土屋公民館**…3つの大きな行事に夏祭り、公民館まつり、地区レクがある。それぞれ自治会や各種団体による実行委員会で対応しているが、地区レクは体育振興会が中心に対応。敬老会は各自治会と個別団体とで対応している。他に子ども会がある。
- **城島公民館**…公民館まつりの模擬店・芸能関連の打ち合わせは3回/年実施している。地区レクは自治会と体育振興会で、神社関連は3自治会と氏子で対応している。全体としていつも同じ人が参加しており大きな負荷が掛かっている。

最後は、他地区の取り組みに対して質問が数多く上がり、質疑応答や情報交換の時間が足りなかったという感想が上がりました。

＜成果＞

各地域でも同様な課題を抱え、工夫して取り組んでいこうとしていることを確認できたかと思われます。どの点から見直していくか、地域の各団体での共有化の大切さを感じていただけたかと思います。

実践講座2

講演　「地域活動を見直す上で必要なことを考えてみよう」

実践講座2回目（最終回）は、コロナ感染症拡大に伴う緊急事態宣言が1月に発令されたため、当初予定していた日程（1月23日（土））を延期しての開催となりました。

実践講座1回目から3カ月が経過したため、受講生の参加状況が心配されましたが、予定通り各公民館にお集まりいただきました。

感染防止のため、講師の宮崎氏もオンラインで参加され、日本各地のコロナ禍で新たに取り組まれた地域活動の様子をご紹介いただきました。

例えば、回覧板を回すことに抵抗感がある地域では、全戸配布からメールやLINEの活用へ、また、回覧板を回しながら高齢者の見守り訪問活動を行うなどの工夫が見られたそうです。

各地区の事例

（1）生活支援：移動販売の実施　→　支援者同士の協力
（2）健康増進：健康に関するビデオの配信、福祉相談ができる敬老会の開催
（3）子 育 て：ICTの活用や子ども食堂の開催
（4）防災活動：自主防災計画の再構築
（5）行　　政：オンライン研修会、地域のホームページ作成アドバイス、工夫した事例の情報交換会、交付金の使途緩和、公園住宅地などキッチンカーの社会実験等

また、新潟県村上市高嶺地区の若者たちからの交流をきっかけに、緊急時の連絡先及び　空き家予備軍の把握等の広がりを見せている事例も紹介されました。

各地域で工夫された事例は参考になった、と感想が上がりました。

講座・ワークショップ：地域行事の再編・見直しをする際、ネックになる点を議論する

後半のワークショップでは、実践講座１回目で課題として挙げられた「地域行事のこれから」をテーマに、各地域で見直してみたい行事（イベント）について意見交換しました。

各地域で上がった意見は以下の通りです（報告順）。

・豊田公民館

ア.盆踊り……交流目的ではあるが子どもの参加が少ない。土日開催で良いのか？

イ.地区レク…参加者が偏っており固定化している。裏方不足の課題もあり、SNSを活用したり地区レクのマニュアル化を試みたい。

・城島公民館

ア.敬老祝賀会…交通手段がない（送迎の検討）
ふれあい活動と参加者が同じであるため統一したい。

イ.地区レク……参加者の高齢化とマンネリに陥っている。
若い世代の参加者を増やすため子ども大会と合同にする。

・土屋公民館

ア.地区レク……選手と種目不足。若い人の参加の種目を増やす。
スポンサーを見つけたい。

イ.子ども大会…参加者が少ない。交流・情報交換の場としてSNSを活用し、親の参加を促す。

・横内公民館

ア.地区レク…参加者が固定化されている。発信は公民館便りとSNSを活用する。
外国籍の方への発信もし、みんなが楽しめるよう運営を見直す。

イ.納涼祭……2日開催を1日に短縮する。

・その他

ア.楽しい公園の環境つくり…清掃も高齢化が進んでいる。世代間の交流の場として地域の住民が楽しく集える場としたい。紙芝居など子どもとの交流。公園利用の規制緩和もお願いしたい。

参加者からは、「コロナ時代で今までやってきたことを見直す事をやっていくべきだ。マンネリ化からの脱却をすべきだと感じた。」等のご意見をいただきました。

＜成果＞

各地域から提案されたアイディアは、地域のとって大切な行事や活動を確認し、その目的にあった工夫や再編を考える入り口になったのではないかと思われます。今度は地域へ戻って関係者の皆さんと調整しながら改善するきっかけとなれば幸いです。

まとめ

市長のことば

コロナ禍の中で地域の活性化に向けて学ぶ受講生の皆さんに御礼と応援のメッセージを、また、平塚市の対策・今後の対応についてご挨拶いただきました。

地域で活動されている皆さんには、いつも平塚市の地域づくりにご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。各地区での課題を自分事として解決していこうとする姿勢をたいへん心強く思います。

地域活動の役員の担い手不足は兼ねてより課題でしたが、新型コロナウイルス感染症対策によって人とのつながりが難しくなったことで、より深刻な課題となっています。そうしたことから、昨年秋、平塚市自治会連絡協議会の２７の連合会長の皆さんにお集まりいただき、今後の地域活動の在り方について4回に分けて意見交換をしました。その中で、地域のつながりが途絶えてしまうのではないかとの懸念の声が多く上がりました。

地域は人と人とのつながりが何といっても重要です。様々な活動を通して、持続可能なあたたかな地域活動にすべく、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思います。来年度は、新たな取り組みとして、社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業を湘南NPOサポートセンターとの協働で実施いたします。

皆さんのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。
（抜粋して紹介しています。）

講座を通して

新型コロナウイルス感染症の拡大は、少子高齢化による担い手不足など地域活動の課題に向き合う契機となりました。各回で受講生の皆さんから寄せられた感想は、どれも前向きなものばかりでした。いくつか抜粋して紹介します。

・他市の事例を参考に「土屋でもこんなことができたら」という前向きな声が聞けて嬉しかった。
・地区レク、子ども大会の課題とその解決策について、みんなで話し合い変えていこうという意思統一ができて良かった。
・地方の活動がすごい、参考になった（発想がすばらしい）。
・コロナ禍での活動方法を工夫した内容は参考になった。中止する場面が多かったし色々と検討する機会もなく１年が過ぎてしまった事は残念で、今回の活動例は良かった。
・地域を支えているのはシニアの力があるからだと、改めて気づかされました。若い方を巻き込んで地域活性化ができればと思います。
・先進的な取組みや工夫を知ることができた。各地区で困っていることが整理でき、その解決に向けての糸口が少しつかめたと思います。具体的な工夫点も出て参考になりました。

一方で、今回各会場をオンラインでつないで受講していただくという初めての取り組みだったため、音声が聞き取りづらい、進め方でわからないところがあった、など課題も残りました。オンラインのメリットを充分に活かすには、まだまだ工夫が必要です。

市や県を超えた地域の方々とのつながりや情報交換が気軽にできる状況になったことは、地域活動の活性化に期待が持てるのではないでしょうか。今後はICTスキルも向上させながら、新しい社会の地域づくりに取り組んでいきたいと思います。

あとがき

第8回のひらつか地域づくり市民大学は新型コロナウイルス感染防止対策の真っ只中での開催となりました。この1年、市内各地域の様々な活動や行事の多くは自粛、縮小、さらには中止ということにもなり、その企画・運営に関わる各種会議も書面決議や回数を減らすなどの工夫に取り組まれたと伺いました。

人口減少、本格高齢化を見据えた地域づくり、地域運営の担い手育成とこれからの仕組みを考えようと8年前から始まったひらつか地域づくり市民大学もその開催・運営方法の大きな転換を迫られました。それまで当然のように考えていた同一会場での集会形式での講座を見直しての小規模オンライン・ネットワーク形式での開催を試行させていただきました。

今回の試行は、参加していただいた各地域の方々にとっても、地域活動、地域運営に関する“これまで”をみつめ、ウイズコロナの“これから”へ向けて「わがこと」として考えるきっかけとなる大事な1年だったのではないかと思います。

世代を超えた人たちが「わがまち」を再考、再確認することから、新しい地域の力が沸き、地域の歯車が動いていくのだと考えます。ひらつか地域づくり市民大学という場がその醸成の一役を担えるよう企画・運営にも工夫を凝らして取り組んでいきたいと思います。